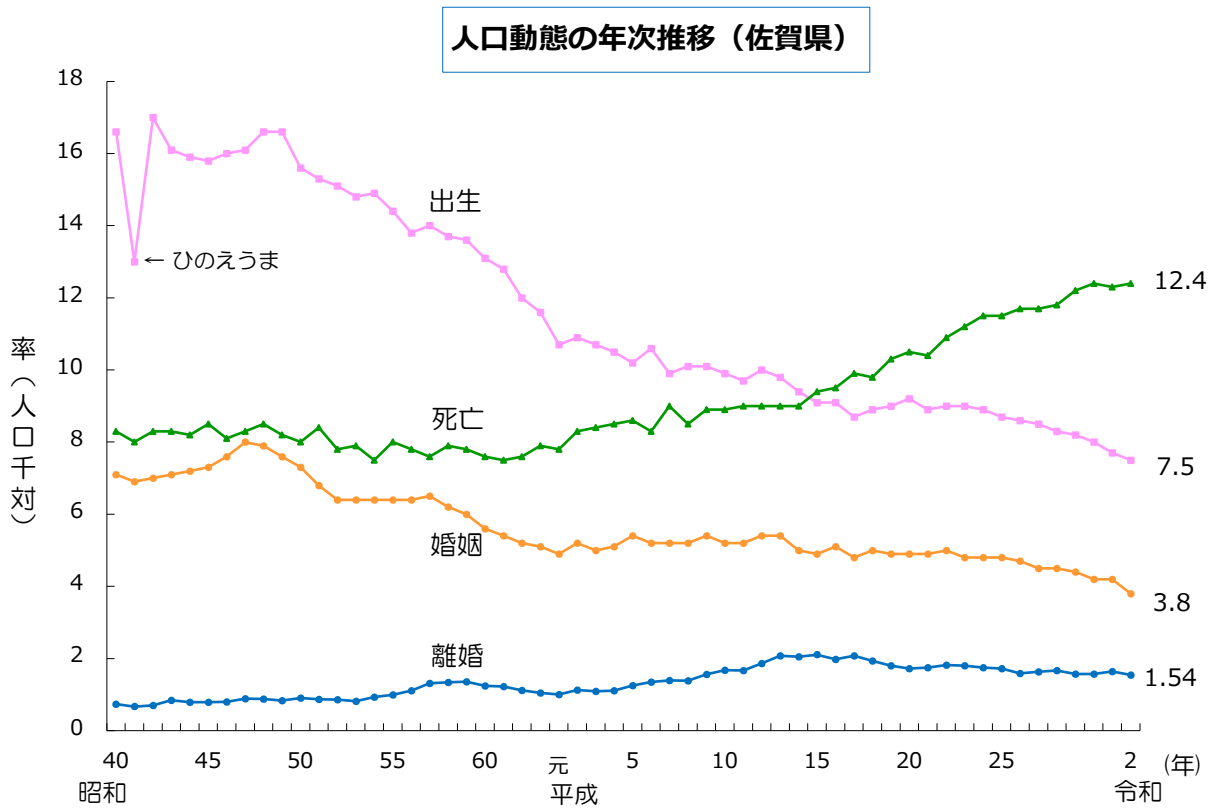


# 令和 2 年 人口動態統計月報年計（概数）の概況 - 佐賀県 -



## 目 次

### 結果の概要

人口動態総覧	1
1 出生数	2
2 合計特殊出生率	2
3 死亡数	3
4 死因順位	4
5 自然増減数	5
6 死産数	5
7 婚姻件数	5
8 離婚件数	5

### 統計表

第1表 主な死因別、悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率	6
第2表 選択死因死亡数・死亡率	7
第3表 死因別死亡数・死亡率	8
第4表 三大死因死亡数、性・年齢階級別	9
第5表 乳児死亡数、新生児死亡数	11
(参考) 合計特殊出生率について	12

	実数				率				全国順位		令和2年 平均発生 間隔			
	令和 2年	令和 元年	増減	対前 年比 (R1年=100)	佐賀県		全 国		令和 2年	令和 元年				
					令和 2年	令和 元年	令和 2年	令和 元年						
出生	6 004	6 231	227	96.4	7.5	7.7	6.8	7.0	6	4	時	分	秒	
死亡	9 963	9 967	4	100.0	12.4	12.3	11.1	11.2	22	25	0	52	54	
乳児死亡	11	15	4	73.3	1.8	2.4	1.8	1.9	22	9	798	32	44	
新生児死亡	6	6	0	100.0	1.0	1.0	0.8	0.9	13	19	1 464	0	0	
自然増減	3 959	3 736	223	106.0	4.9	4.6	4.3	4.2	17	16			...	
死産	116	125	9	92.8	19.0	19.7	20.1	22.0	32	38	75	43	27	
自然死産	72	69	3	104.3	11.8	10.9	9.5	10.2	9	18	122	0	0	
人工死産	44	56	12	78.6	7.2	8.8	10.6	11.8	45	43	199	38	11	
周産期死亡	25	21	4	119.0	4.2	3.4	3.2	3.4	6	27	351	21	36	
妊娠満22週 以後の死産	20	18	2	111.1	3.3	2.9	2.5	2.7	3	19	439	12	0	
早期 新生児死亡	5	3	2	166.7	0.8	0.5	0.7	0.7	12	41	1 756	48	0	
婚姻	3 031	3 394	363	89.3	3.8	4.2	4.3	4.8	28	33	2	53	53	
離婚	1 235	1 329	94	92.9	1.54	1.64	1.57	1.69	24	23	7	6	45	
合計特殊 出生率	...	...	...	...	1.61	1.64	1.34	1.36	6	5				
生活 習慣 病 死 亡	悪性新生物	2 689	2 721	32	98.8	335.3	336.8	307.0	304.2	19	18			
	心疾患	1 488	1 394	94	106.7	185.5	172.5	166.7	167.9	21	36			
	脳血管疾患	687	771	84	89.1	85.7	95.4	83.5	86.1	34	26			

(注) 1 比率算出に用いた人口

令和元年10月1日現在推計人口(日本人人口)

(総務省統計局「人口推計」)

令和2年10月1日現在推計人口(日本人人口)

(総務省統計局の資料に基づき、厚生労働省政策統括官付

参事官付人口動態・保健社会統計室で推計)

佐賀県 808,000人

全 国 123,731,176人

佐賀県 802,000人

全 国 123,250,274人

2 率は、出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚は人口千対、乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡は出生千対、死産は出産(出生+死産)千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対、生活習慣病死亡は人口10万対である。

3 合計特殊出生率とは、「15~49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供の数に相当する。

4 全国順位は高率順位である。なお、同率であった場合、令和2年は概数値であるため、表示桁数により、また、令和元年は確定値であるため、表示以下桁数により順位を付している。

## 1 出生数は減少

出生数は6,004人で、前年の6,231人より227人減少し、出生率(人口千対)は7.5で前年の7.7を0.2ポイント下回った。

出生数を母の年齢階級(5歳階級)別にみると、30~34歳が2,110人で前年に引き続き最も多かった。また、35~39歳及び45~49歳を除いた階級において前年より減少した。

母の年齢階級別出生数

佐賀県

母の年齢	出生数				対前年増減		
	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	(2-元)年	(元-30)年	(30-29)年
総数	6 004	6 231	6 535	6 743	227	304	208
~14歳	-	-	-	-	-	-	-
15~19	65	69	87	90	4	18	3
20~24	633	728	743	789	95	15	46
25~29	1 664	1 710	1 785	1 856	46	75	71
30~34	2 110	2 163	2 252	2 384	53	89	132
35~39	1 284	1 266	1 355	1 328	18	89	27
40~44	245	293	303	293	48	10	10
45~49	3	2	9	3	1	7	6

## 2 合計特殊出生率は減少

合計特殊出生率は1.61であり、前年の1.64より0.03ポイント下回った。

都道府県別にみると、令和2年は沖縄県、島根県、宮崎県、長崎県、鹿児島県に次いで全国第6位となり、前年の5位より順位が下がった。

合計特殊出生率の年次推移

	昭和60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年
佐賀県	1.95	1.75	1.64	1.67	1.48	1.61	1.64	1.63	1.64	1.64	1.64	1.61
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.34

注：合計特殊出生率は、「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

### 3 死亡数は減少

死亡数は9,963人で前年の9,967人より4人減少し、死亡率（人口千対）は12.4で、前年の12.3を0.1ポイント上回った。

死亡数を年齢（5歳階級）別にみると、下表のとおり75歳以上で突出しており全体の78.8%を占め、65歳以上を含めると全体の91.8%を占めている。

また、本県の死亡率はいずれの年も全国平均をかなり上回っているが、基準人口に全国の人口を使用した年齢調整死亡率で比べてみると全国の死亡率とほぼ同じことから、本県の死亡率が高いのは高齢人口の割合が高いことによるものと思われる。

年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率・死亡割合

佐賀県

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡割合	
				人口千対		対前年増減		
	令和2年	令和元年	対前年増減	令和2年	令和元年		令和2年	令和元年
	人	人	人				%	%
総数	9 963	9 967	4	12.4	12.3	0.1	100.0	100.0
0～4歳	13	18	5	0.4	0.5	0.1	0.1	0.2
5～9	1	3	2	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
10～14	1	7	6	0.0	0.2	0.2	0.0	0.1
15～19	10	5	5	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
20～24	10	17	7	0.3	0.5	0.2	0.1	0.2
25～29	14	16	2	0.5	0.5	0.0	0.1	0.2
30～34	13	24	11	0.3	0.6	0.3	0.1	0.2
35～39	25	16	9	0.6	0.3	0.3	0.3	0.2
40～44	45	45	0	0.9	0.9	0.0	0.5	0.5
45～49	80	85	5	1.5	1.6	0.1	0.8	0.9
50～54	108	108	0	2.2	2.2	0.0	1.1	1.1
55～59	182	186	4	3.7	3.7	0.0	1.8	1.9
60～64	312	285	27	5.8	5.1	0.7	3.1	2.9
65～69	513	592	79	8.3	9.3	1.0	5.1	5.9
70～74	786	757	29	13.2	13.9	0.7	7.9	7.6
75～79	950	979	29	22.5	22.4	0.1	9.5	9.8
80～84	1 473	1 471	2	41.3	41.2	0.1	14.8	14.8
85～89	2 078	1 990	88	75.3	73.0	2.3	20.9	20.0
90歳以上	3 349	3 363	14	162.8	171.6	8.8	33.6	33.7

注：率及び割合は小数点第5位まで算出し、端数処理後の小数点第1位までを表示している。

死亡率の年次推移

	昭和60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年
佐賀県	7.6	8.3	9.0	9.0	9.9	10.9	11.7	11.8	12.2	12.4	12.3	12.4
全国	6.3	6.7	7.4	7.7	8.6	9.5	10.3	10.5	10.8	11.0	11.2	11.1
年齢調整死亡率	6.2	6.8	7.5	7.7	8.5	9.4	10.3	10.4	10.8	11.1	11.0	11.2

年齢調整死亡率とは人口構成の異なる集団での死亡率を比較するために、一定の基準人口にあてはめて調整した死亡率のことをいう。

注：死亡率の分母に用いた人口

国勢調査年：「国勢調査」（総務省統計局）

それ以外の年：「人口推計」（総務省統計局）、「推計人口」（県統計分析課）

注：率及び割合は端数処理後の小数点第1位までを表示している。

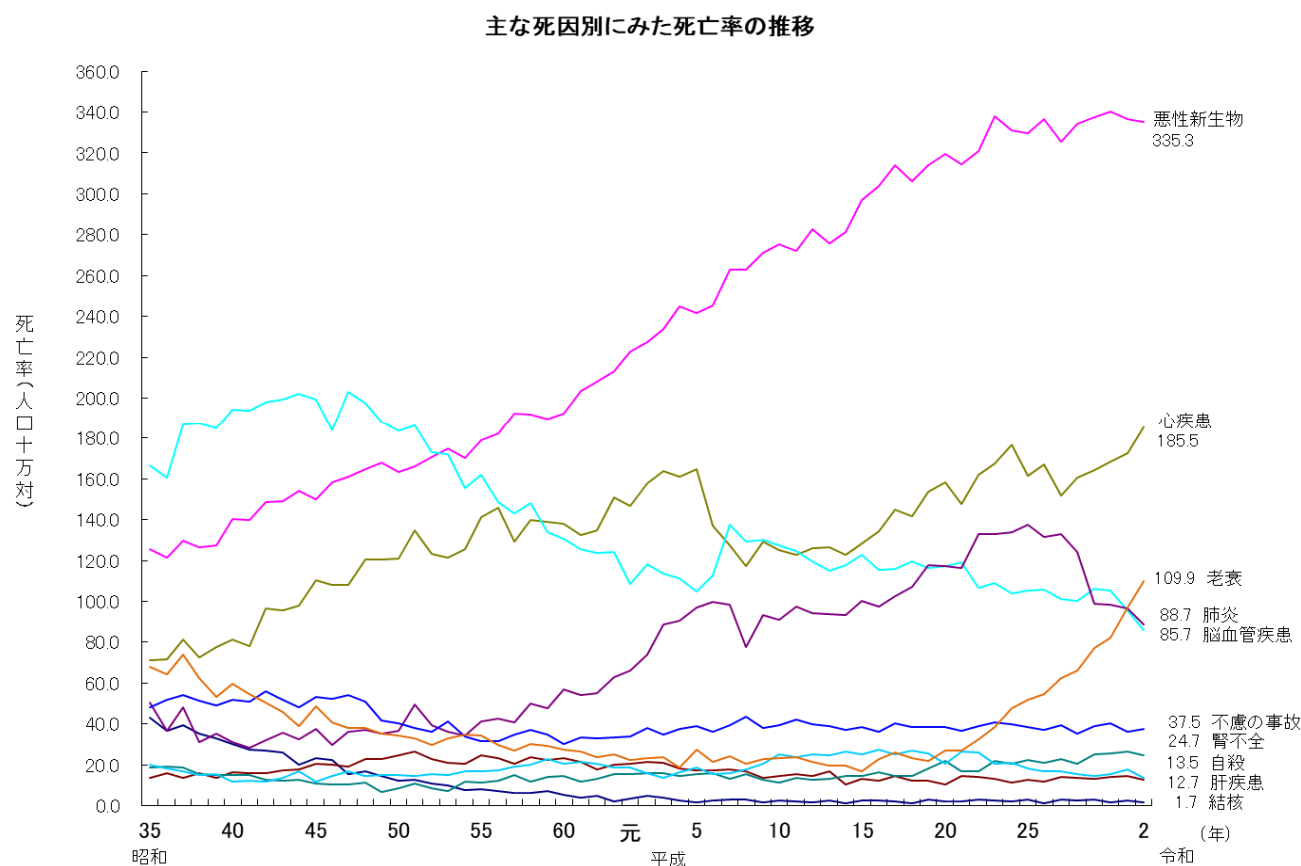
## 4 死因順位は悪性新生物が1位

主な死因別、悪性新生物の部位別死亡数・死亡率について、前年と比較すると第1表（統計表）のとおりである。

死因順位の第1位は悪性新生物で、昭和53年以降43年連続第1位であり、全死亡者に占める割合も27.0%で、全死亡者のおよそ3.7人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

主な死因の死亡率は、上位から「悪性新生物」「心疾患」「老衰」「肺炎」「脳血管疾患」の順となった。

また、悪性新生物の主な部位別死亡数は「気管、気管支及び肺」「胃」「結腸」の順で多く、前年と比較すると「胃」「膵」「悪性リンパ腫」「直腸S状結腸移行部及び直腸」等は減少しているが、「気管、気管支及び肺」「肝及び肝内胆管」等で増加している。



注 1) 「誤嚥性肺炎」は平成29年より死因順位に用いる分類項目に追加された。

2) 平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、ICD-10（2013年版）（平成29年1月適用）による原死因選択ルールの特異化によるものと考えられる。

## 5 自然増減数は減少

出生と死亡の差である自然増減数は 3,959人で、前年の 3,736人より223人減少し、自然増減率（人口千対）は 4.9で、平成15年から18年連続でマイナスとなった。

## 6 死産数は減少

死産数は116胎で、前年の125胎より9胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は、19.0で、前年の19.7より0.7ポイント下回った。

## 7 婚姻件数は減少

婚姻件数は3,031組で、前年の3,394組より363組減少し、婚姻率（人口千対）は、3.8で、前年の4.2より0.4ポイント下回った。

平均初婚年齢（各届出年に結婚生活に入ったもの）は、夫は30.2歳で前年より0.2歳低くなり、妻は29.1歳で前年より0.1歳高くなった。

平均初婚年齢の年次推移

		昭和 60年	平成 2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	令和 元年	2年
佐賀県	夫	27.9	28.4	28.4	28.0	29.0	29.6	30.2	30.2	29.9	30.2	30.4	30.2
	妻	25.5	25.9	26.3	26.5	27.4	28.2	28.9	28.8	28.6	28.9	29.0	29.1
全 国	夫	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	31.1	31.1	31.1	31.1	31.2	31.0
	妻	25.5	25.9	26.3	27.0	28.0	28.8	29.4	29.4	29.4	29.4	29.6	29.4

## 8 離婚件数は減少

離婚件数は1,235組で、前年の1,329組より94組減少し、離婚率（人口千対）は1.54前年の1.64より0.1ポイント下回った。